

## 第3回気象庁モデルフォーラムについて\*

桃井保清\*\*

近年、数値モデルは天気予報の基盤をなすものになっているが、大学や研究機関においても自然現象を再現し、そのメカニズムを解明する手段として広く利用されるようになってきている。

数値モデルは、計算機技術の発達と地球科学分野での研究の進展を両輪として発展してきており、一層の精度向上を図るためには今後もこれらの成果を取り入れることが必要である。

気象庁では、平成11年11月にモデル技術開発推進本部を設け、部内の開発体制の強化を図るとともに、国内諸機関との連携の強化を図ることとした。この一環として、国内モデル開発者間の技術交流の場として、定期的にモデルフォーラムを開催することとし、平成14年5月21日に気象庁講堂（東京都千代田区）において第3回気象庁モデルフォーラムを開催した。今回のフォーラムは、気象学会メソ気象研究会に引き続き形で開催し、100名以上の参加者を得て盛況のうちに終えた。気象庁では、国内での数値モデルの利活用の促進とそこで得られた知見のモデル技術開発への反映を目的として、保有する数値モデルを一定の条件のもとに大学、研究機関に公開<sup>1)</sup>しており、現在30の大学・研究機関で利用されている。今回のフォーラムでは、これらの活動を一層促進するための方策について提案し意見交換を行うとともに、数値モデルを利用した研究例が報告された。

今後、このような機会を通じて、国内における数値モデルを用いた研究・開発と数値モデルに関わる情報の交換・蓄積が一層進み、そしてこのことが数値モデル自体の改善に繋がって行くことを願っている。

第3回気象庁モデルフォーラムの概要は次のとおりである。

- ①数値予報モデル研究グループ（代表：東北大学教授 岩崎俊樹）の提案を受けて、数値モデル開発・利用に関する情報共有を促進するため気象庁で整備した数値予報研究開発プラットフォームの概要について説明された（説明者：気象庁数値予報課 藤田司）。プラットフォームには数値モデルのソースコードなどが格納されており、プラットフォーム上で改良が図られたときの情報交換などをネットワーク上で適時行うことができる。
- ②気象業務支援センターから提供される数値予報 GPV データの概要について紹介された（説明者：気象庁産業気象課 横手嘉二）。今回新たにインターネットを通じて、支援センターから送られてくる (PUT) サービスと利用者が必要なときに取りに行く (GET) サービス（月額8千円、詳細は気象業務支援センターHP (<http://www.jmbc.or.jp/>) に紹介されている）が開始される。また、日本気象協会において GPV データを局地気象予測、光化学オキシダント予報に利用した事例などが紹介された（説明者：日本気象協会数理応用課長 鈴木 靖）。
- ③気象庁において開発が進められている WWW を使用した新しいデータ交換方式（“Pandora” と呼称）について紹介された（説明者：気象庁数値予報課長 谷川昌樹）。この方式を使用することにより、多種多様なデータ形式の変換の手間を軽減することができる。これに関連して、データ変換ソフトの提供などについて意見交換が行われた。

\* Summary of the third forum on JMA numerical prediction models

\*\* Yasukiyo Momoi, 気象庁総務部。

<sup>1)</sup> 気象庁では、平成12年7月から大学・国立研究機関か

© 2002 日本気象学会

ら気象庁モデルを研究目的で利用するために申請があった場合には、一定の利用条件遵守を条件に、①MRI/JMA 非静力学モデル、②JMA 領域モデル、③JMA/MRI 全球大気モデルを貸与している。（問い合わせ先：気象庁総務部企画課技術開発調整官）

- ④気象庁内の数値モデル開発者間で検討されているソフトウェア言語 Fortran90のコーディングルールについて提案された(説明者: 気象研究所 室井ちあし). 数値モデルのような大規模ソフトウェアの共同開発には共通のルールが必要であり, 開発者の合意を基本としてより良いルール作りを目指す. コーディングルールの詳細は気象研究所 HP (<http://www.mri-jma.go.jp/Dep/fo/mrinpd/coderule.html>) に掲載されている.
- ⑤東京大学海洋研究所 新野 宏助教授から, メソモ

デルを使用した研究例(沖縄東方に生じた渦列の構造解析, 日本海北部で発生したポーラーローの解析, 温帯低気圧に伴う千葉県佐原市での大雨解析, 熱雷の再現と解析)が紹介された. 研究は, 面白い現象の発見, モデル計算による現象の再現・解析, メカニズムの分析という手順で行う. 数値モデル, GPVデータは提供されたが, 観測データをリアルタイムに取り込むことが必要である. これに関連して, 観測データの提供に関して意見交換が行われた.

## 2002年度「朝日賞」の候補者推薦募集

標記の賞について, (財)朝日新聞文化財団から以下のお知らせがありました. 気象学会では, 7月末ごろに「学会外各賞推薦委員会」を開催して「朝日賞」への推薦者を選考する予定ですが, 学会以外からの推薦も可能ですので下記の要領で応募して下さい. 詳しい資料と推薦用紙は気象学会事務局にあります.

1. 対象: わが国のさまざまな分野において傑出した業績をあげ, 文化, 社会の発展, 向上に多

大な貢献をされた個人または団体.

2. 推薦締切: 2002年8月30日(金)

3. 問い合わせ先:

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

朝日新聞社事業本部

メセナ・スポーツ部「朝日賞」係

Tel: 03-5540-7453, Fax: 03-3541-8999



## 第24回沖縄研究奨励賞の推薦募集

標記の賞について, (財)沖縄協会から受賞候補者の推薦募集がありました.

1. 対象: 沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学・人文科学または社会科学)を行っている50歳以下(7月15日現在)の新進研究者またはグループ
2. 表彰内容: 本賞並びに副賞として研究助成金50万円

3. 応募方法: 必要書類を9月30日(消印有効)までに上記協会へ郵送. 学会・研究機関・大学または実績のある研究者の推薦が必要.

詳しい募集要領は気象学会事務局にあります. また <http://village.infoweb.ne.jp/~fvgm0090/>にも掲載されています. なお気象学会の推薦を希望する場合は, 必要書類を準備の上, 9月9日までに気象学会事務局に提出して下さい.